

社会保障領域のインフルエンサーを目指す医療法人東西会グループ

連載 125 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック理事長
橋本 満義 (69歳・内科)

実年齢ではなく精神年齢に生きて
楽しく幸せな未来を創造する“健康長寿”の視座で…

これは訪問診療時の在宅患者のF.Oさん(93歳、女性)との会話です。
「私は69歳になりました。もう70歳手前ですよ」
「先生はお若いよ、まだ70歳代。今から人生の集大



成ですね。32歳で開業されたころは、色白できれいなお顔をされていたわね」

「当時のことをなんで知っているんですか?その頃、西洋医学と漢方医療の併用治療をしていて、とても忙しくたくさんの患者さんを診ていたので、お会いしていたのなら気づかなくてごめんね」

「私は当時、先生が開業されていたビルの中にある保険会社でセールスレディをしていたの。そして私が先生に診てもらった患者第一号だったのよ」
あらためて考えると、F.Oさんとのお付き合いは39年余りになります。それは貴重な時間でした。

当時、漢方薬の処方希望されて来院された彼女でしたが、その後、私が心臓弁膜症との診断をし、専門病院で大手術を受けることになるのです。そして私

にとって欠かせない存在の一人となったのです。

最近特に、90歳代の在宅患者さんから一同に発せられる言葉があります。

「70歳からは、充実した、人もうらやむ年頃になります。日々を大切にしてください」と助言されるのです。しかも、その助言をしてくださるのは、ほとんど女性(最高齢は105歳の女性)なのです。

このようなエピソードの影響もあってか、最近私の人生観が大きく変わったことに気づきました。俗っぽい当たり前の言い方かもしれませんが、

「上へ上へ、未来に向けて上昇志向ばかりで、今まで足元の現実が見えてなかったことに気付かされました。今後は、下へ下へ、過去もしっかりと振り返る余裕も必要だと思い始めた今日このごろです」

今年から始める健康長寿体験施設運営もさらにしっかりとした視座でと、はやる気持ちの私でしたが、このところ、その気持ちを落ち着かせようとしている私がいます。

通常の習いがごとく「70歳、古希、従心」と、心深く決心しています。

「人間50年…」を自ら辞世の句とした織田信長の時代とは違い、今や「人生100年」と言われています。私たちの在宅患者さんにも105歳の女性がいらっしやいます。
2035年ごろには、山中Dr.のiPS細胞、そしてAIや臓器移植などにより「人生150年」になるであろうといった仮説を論じる学者もいるほどです。

～安全・安心・健康塾～

〈ボランティア活動〉
人の命は、呼吸停止、心停止後5分間で死に至ります。(5分間ルール)
現場の人達を救命救急士として教育する
「安全・安心・健康塾」出張講義に、期待が集まります。



外来診療(かかりつけ医) 総合内科・漢方診療科

お医者さんが来てくれる 24時間・365日体制で対応 (松山市全域)

私たちは、質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 18名
内科・外科専門医 16名 (国立がんセンター勤務歴有3名)
麻酔科専門医 2名 (ペインクリニック科)
末期がん治療(緩和ケア)相談室開設!

訪問診療

(医)東西会イメージキャラクター「イチゴ・ツル・カメ」三世代の「絆」を表すキャラクターです。イチゴはこどもたち、ツルはお父さん・お母さん、カメはおじいちゃん・おばあちゃんを表しています。

国立愛媛大学附属病院臨床研究協力機関
大阪医科大学(研修医・医学生)在宅医療研修・研究協力機関
関西医科大学との在宅医療研修・研究協力機関

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9
Tel:089-933-3788
<http://www.touzaikai.jp/>